

審査の結果の要旨

氏名 中原理佳

本研究では、2型糖尿病患者のQOLを構成する1因子である気分、ライフイベントや日常のいらいら、ソーシャルサポート、セルフ・エフィカシー、ストレス対処能力などの心理社会的因子と血糖コントロールや合併症などの身体的因子が与える影響を、共分散構造分析を用いて、気分を目的変数とした因果モデルを作成して検討した。さらに、2型糖尿病患者の6ヶ月後、12ヶ月後の血糖コントロールに、これらの心理社会的因子および身体的因子が与える影響を包括的かつ縦断的に検討するため、共分散構造分析を用いて、血糖コントロールを目的変数とした因果モデルを作成し、下記の結果を得ている。

精神的なQOLへの影響に関して

1. 2型糖尿病患者の気分には、糖尿病に関連した苦痛と日常のいらいらが直接的な影響を与えるほか、ストレス対処能力やセルフ・エフィカシー、ソーシャルサポート、血糖コントロールなどの因子が間接的に影響を与えていることが示唆された。
2. 糖尿病に関連した苦痛や日常のいらいらは、情動中心型コーピングにより高められることが示唆され、これらのストレスを軽減させるためには、問題中心型コーピングなどの有効なストレス対処方法を習得することが重要であると考えられた。
3. セルフ・エフィカシーは、糖尿病に関連した苦痛を軽減させ、間接的に気分に影響を与えることが示唆された。
4. セルフ・エフィカシーは、ソーシャルサポートや良好な血糖コントロールを維持することにより強化され、日常のいらいらにより減弱されることが示唆された。
5. 以上より、2型糖尿病患者のQOLの向上には、有効なストレス対処方法の習得、ソーシャルサポートの強化や良好な血糖コントロールを維持することによりセルフ・エフィカシーを強化すること、さらに、糖尿病に関連した苦痛と日常のいらいらを軽減することが重要であることが示唆された。

長期の血糖コントロールへの影響に関して

6. 2型糖尿病患者の6ヶ月後、12ヶ月後の血糖コントロールには、調査開始時の血糖コントロールと治療アドヒアランスが直接的な影響を与えるほか、糖尿病に関連した苦痛、日常のいらいら、ストレス対処能力、セルフ・エフィカシー、ソーシャルサポートなどの因子が間接的に影響を与えていることが示唆された。
7. 治療アドヒアランスは、セルフ・エフィカシーにより高められ、この影響が非常に大きいことが示唆された。

8. セルフ・エフィカシーは、ソーシャルサポートや良好な血糖コントロールを維持することにより強化され、糖尿病に関連した苦痛や日常のいらだち事により減弱されることが示唆された。
9. 糖尿病に関連した苦痛や日常のいらだち事は、情動中心型コーピングにより高められることが示唆された。また、糖尿病に関連した苦痛は、過去の血糖コントロールが不良であるほど増強することが示唆された。
10. 以上より、2型糖尿病患者において、治療アドヒアランスを高め、良好な血糖コントロールを維持するためには、セルフ・エフィカシーの強化が重要であることが示唆された。そのためには、ソーシャルサポートの強化、良好な血糖コントロールの体験、有効なストレス対処方法の習得により糖尿病に関連した苦痛や日常のいらだち事を軽減することが重要であることが示唆された。さらに、2型糖尿病の治療における心理的介入の重要性も示唆された。

以上、本論文は、これまでほとんど報告のなかった、2型糖尿病患者における精神的なQOLおよび血糖コントロールと、種々の心理社会的因子、身体的因子との因果関係を、共分散構造分析を用いて、包括的かつ縦断的に検討した。本論文は、今後の糖尿病患者への心理的介入に重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。